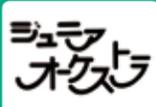


台東区ジュニアオーケストラと台東区上野の森ジュニア合唱団では、演奏活動や合唱を通して青少年の情操と協調の精神を養うとともに、文化発展に寄与することを目的に活動を行っております。



## 台東区ジュニア・オーケストラ からのお知らせ

### 台東区ジュニア・オーケストラとは

演奏活動を通して情操と協調の精神を養うとともに、本区の文化発展に寄与することを目的に、昭和55年12月に創立されました。現在、感染症対策を講じながら、小学3年生から高校生年代までの団員・教室生で活動しています。

### 団員オーディション

あなたも一緒に演奏しませんか？ジュニア・オーケストラでは、新たに仲間になる団員を募集しています。

	団員	初級教室	養成教室
募集パート	弦、木管、金管、打楽器	弦（バイオリン、ビオラ、チェロ）、コントラバス（初級教室のみ）	
対象	小学4年生～中学生 ※令和3年4月1日時点 (区内在住・在学の方)	小学3年生～6年生 ※令和3年4月1日時点 (区内在住・在学の方)	
内容	・オーケストラ曲の練習 ・年数回の演奏会を実施	・弦楽器の合奏練習 ・次年度の継続可能 ・年1～2回演奏会に参加	・弦楽器の個人レッスン（レッスン以外の時間は初級教室の練習に参加） ・次年度の継続不可 ・年1～2回演奏会に参加
練習	毎週土曜日（午後4時～6時30分） 毎月第3日曜日（午後1時～5時） ※夏冬春季休みに強化練習有り	毎週土曜日（午後1時30分～3時30分） ※夏冬春季休み中も練習有り	
練習場所	台東区立浅草小学校音楽室（花川戸1-14-15）		
費用（団費）	団員：年間12,000円 初級・養成教室：年間6,000円		



第39回定期演奏会の様子（令和元年9月1日）



## 台東区上野の森ジュニア合唱団 からのお知らせ

### 台東区上野の森ジュニア合唱団とは

合唱を主とする演奏活動を通じて青少年の情操と協調性を養うことを目的に平成2年に設立されました。年3回の自主演奏会実施の他、外部演奏会の出演等の活動を行っております。現在は、感染症対策を講じながら、練習時間等を縮小して活動しています。

### 団員募集

あなたも歌や楽器に親しむ合唱団の一員になりませんか？

	団員
対象	小学2年生～中学生 ※令和3年4月1日時点（区内在住・在学の方）
練習	【レギュラークラス】 毎週水・土曜日 午後4時30分～7時 ※夏冬春季休みに強化練習有り  【入門クラス】 土曜日 午後3時30分～5時  ・入団者は「入門クラス」に在籍していただきます。練習で歌唱力がついた団員は「レギュラークラス」へ進級になります。
練習場所	生涯学習センター3階リハーサル室
費用（団費）	年間12,000円



第29回演奏会の様子（令和元年9月15日）

- 上記2つの募集は、詳細が決まり次第、区のホームページや区内小・中学校にてお知らせいたします。
- なお、個別のお知らせをご希望の方は、下記お問合せ先までご連絡ください。
- お問合せ先：生涯学習課社会教育担当 ☎5246-5851

## リレートーク

連載 34

### 子供の財産

大石 京子

(台東区立浅草小学校 校長)



浅草小学校では、活躍する卒業生を「ようこそ先輩」と題してお招きし、講演会を企画しています。昨年度は女子レスリング選手の浜口京子さん、今年度は落語家の林家木りんさんをお招きしました。校長室で事前の打ち合わせをしたり講演会後に歓談したりしていると、小学校時代の思い出話が尽きません。担任の先生の話や授業中や放課後、学校行事でのエピソード。時を超えて浅草小学校の学び舎で過ごした時間がよみがえり、大いに盛り上がりませす。小学校時代の思い出は、ちょっと恥ずかしい思い出も少々苦しい思い出も

笑い話に変わり、懐かしさを共有できるから不思議です。

解剖学者の養老孟司さんが著書「かけがえのないもの」の中でこう書いています。『…それでは子供が持っている財産とは何か。それこそが、一切決まっていない未来、漠然とした未来なのです。その子にとって未来がよくなるか悪くなるか、それはわかりません。とにかく彼らが持っているのは、何も決まっていないという、まさにそのことなのです。私はそれを「かけがえのない未来」と呼びます。…』

小学校時代は、浜口さんにしても木りんさんにしても、将来自分がどんな道を選択するか、全く決まっていなかった時代です。そして周りの誰も浜口京子さんがオリンピックのメダリストになることや、林家木りんさんが人気落語家になることを予想していなかったことでしょうか。小学校時代とは、誰もが真っ白なキャンバスを共通に持っている時代といえるかも知れません。その共通の財産が思い出を分かち合える懐かしさに変えてくれるのかも知れません。

今、目の前にいる子供たちには真っ白なキャンバスをしっかり握って、自由に思いっきり自分の絵を描いて行って欲しいと願います。

